

金曜コラム - 国政監査スケッチ

ジョン・ヨンチョル（西江大教授・体育市民連帯執行委員）

去る 10 月 10 日に始まった国政監査が終わった。昨年の国政監査が新政府発足 5 ヶ月ぶりに開かれて朴槿恵政府の最後の国政監査という評価を受けたので、今回の国政監査は新政府の実質的な最初の国政監査として期待を集めた。特にチェ・スンシル国政壟断事態を主導していたアン・ミンソク議員が文化体育観光委（文体委）委員長を務め、スポーツ界がかけた期待はさらに格別だった。結論から言えば、スポーツ界だけに限定してみると今回の国政監査は大きな期待に比べて得られた中身がなかった。宣銅烈（ソン・ドンヨル）監督を証人席に立てて韓服とテコンドー服を着て登場し、メディアの関心を受けただけで、肝心のスポーツ界の旧態と積弊清算のための叱責と政策代案は不備だった。特に文化芸術界ミートゥー運動とは異なり、異常なほど静かなスポーツ界の性暴力やわいせつ問題を指摘した文体委の国会議員はいなかった。昨日の女性の家族委員会国政監査場でスポーツ性暴行問題を診断から現実まで細かく取り上げたピョ・チャンウォン議員の質疑が唯一だった。

ご存知のように、文体委の最初の問題は宣銅烈野球国家代表チーム監督だった。主にジャカルタアジア大会の野球代表チームの選手選考の疑惑を迫する質疑を受けた。宣監督の代表チーム選手選抜を批判した質問で出てきた国会議員の質問は水準以下であった。正しい未来党の金スミン議員は 2018 年のシーズンが終わって行く時点で昨年のデータを持ち出して質疑した。最も強く宣銅烈監督を責め立てた民主党ソン・ヘウォン議員も新しい疑惑や既存の提起された疑惑を、裏付ける根拠なく「誤るか辞退してください。最後まで言い張って粘ると、2020 年までに行くのが難しい」、「優勝したと言わないでください。あの優勝が難しいとは思いません」などと卑下発言をして逆風を受けた。名古屋の太陽ソン・ドンヨルを国政監査に立てたが、肝心の運動選手の兵役特例の建設的な対案よりも「ヤアルモ」国会議員の監督叩きという評価を受けた。

（訳注：ヤアルモという野球漫画があるらしい）

四日後、文体委の国政監査場で宣銅烈監督と一緒に逆風を受けたソン・ヘウォン共に民主党議員と金スミン正しい未来党議員が韓服を着て登場した。この「韓服国政監査」は、アン・ミンソク文体委員長長の提案で行われたと知られたが、アン委員長は前日、「次の日、文化財庁国政監査だからドレスコードに気を使ってほしい」と注文した。似たような試みが三日後、テコンドー服で繰り返される。正しい未来党のイ・ドンソプ議員の道衣を着て出てきたのである。この議員は国政監査開始前「去る 3 月の本会議で議決した'テコンドー国技指定法'が今日から施行されて、それを国民に知らせるために文化界の傘下機関の国政監査にも道着を着用した」と明らかにした。

23 日には文化体育観光委員会国政監査場の証人席にジョン・ミョンギョ韓国体育大教授（前スケート競技連盟副会長）が立った。国家代表シム・ソクヒ選手を平昌五輪直前に暴行し、法廷拘束されたジョ・ジェボム前国家代表コーチの手紙が朗読された。このすべての行為がジョン・ミョンギョ教授の暴圧的指示のせいだったと主張する内容だ。続いてソン・ヘウォン共に民主党議員が「精神病院に行くほどに選手を圧迫しなければならない」というジョン教授の音声録音ファイルを公開した。韓国の代表的なメダル種目ショートトラックの素顔があらわれた瞬間だった。

国政監査終盤の 29 日には、アン・ミンソク委員長と郭ヨンウン大韓テニス協会長の舌戦が話題になった。

アン委員長が直接「テニス界壟断」疑惑を指摘するや、郭ヨンウンテニス協会会長が激しく反発して国政監査場に緊張が高まった。アン委員長は「テニス協会に対する大韓体育会の監査の結果、郭会長が会長に就任し、引継ぎの委員長に親戚を任命したのは不適切であるとした」とし「郭会長が過去の国政監査で偽証したもの」と述べた。郭会長は「テニス界のドゥッボジャブ（訳注：ネット用語で、聞くことも見ることも出来ない奴または怪物というような意味）」というアン委員長の指摘に、すぐさま「ドゥッボジャブと言いましたか、私はジャブノム（訳注：下品、下劣な奴）ですか？」と問い詰めた。アン委員長は「このように国会を陵辱するのは、解放後初めてである」として、自分自身を落ち着かせるために会議の中断を宣言したりもした。今回の国政監査での個人的なハイライトはピョ・チャンウォン議員のヨガブ質であった。ピョ議員は30日、国政監査で「スポーツ界の性犯罪の現状と支援システム」をチェックして、内部調査の過程で発生する2次被害を防ぐための努力を促した。イ・ビョンジン大韓体育会クリーンセンター長を証人として採択し、これまでの性暴行申告事例と対策結果などを問い、実際の被害者である金ウニ／テニス選手、イ・ギョンヒ/リズム・コーチ等の事例を具体的に言及しながら非難したものである。このような質疑が文体委でも行われていたら…。スポーツ界としてはあれこれ物足りなさが大きい2018年の国政監査である。

01 スポーツソウル 2018.10.30 【 体育会長と信徒会長 】

宗教のように敏感なものが他にあるだろうか。韓国のように主導的宗教がない社会ではなおさらです。宗教が多文化された社会では、お互いの宗教を尊重し共存の基盤を用意すべきであって、排他的立場から、それぞれの信念に鋭いナイフを向けた場合、ややもすると取り返しのつかない大きな葛藤に飛び火する可能性があるからです。先週の国会で文化体育観光委員会（委員長アン・ミンソク）の国政監査で敏感極まりない宗教問題が出て目を引きました。大韓体育会の李ギフン会長の宗教的偏向性が、最終的に浮き彫りになったからです。李会長は過去2012年から曹溪宗中央信徒会長を務めています。個人の宗教的信念がとがめられる問題は、韓国スポーツ界の首長が特定の宗教に偏った人事を行ったら、それはそのまま通り過ぎることができない重大事案だということに、誰もが共感しました。

スポーツにおける宗教は極めて慎重にアプローチすべき敏感な問題です。スポーツは差別のない自由地帯で存分に遊泳できるような分野だからです。オリンピック憲章第27条6項に明記された「国家オリンピック委員会（NOC）は、政治、宗教、経済的圧力をはじめとする任意の圧力にも屈せず、自律性を維持しなければならない」という金科玉条も宗教によって損なわれることがあるスポーツの精神を未然に防止しようと用意された規定です。

李会長が他の宗教についての偏見を持ったり、被害を与えたりしたことは決してありません。だからといって李会場の宗教的偏向性に免罪符を与えることができるでしょうか。国政監査で指摘されたように、李会長は大韓体育会長就任以来、一段高くなった宗教的偏向人事を断行したのが事実です。スポーツ界の内部でさえ、李会場の宗教的偏向性に懸念の色を示したりしました。体育の中心に立つべき大韓体育会が最近、蛇行している決定的な理由も考えてみれば人事の公正性毀損からです。選挙の功臣が要職を占めたことだけでなく、宗教的コネクションが作用して人事システムを麻痺させた場合、それは今でも正さなければならないというのが筆者の考えです。

今の体育会は総体的危機です。長い間、体育会を出入りした記者の目には体育会全体がシャットダウンされた姿は大きな衝撃として近づいてきました。どんな組織でもいつも問題はあるものですが、システム全体が

崩壊して「植物体育会」に転落したのは、おそらく「李ギフン号」が初めてでしょう。大半のメンバーたちの心が体育会という組織を去った理由は人事が決定的です。選挙の功臣をとりたてる情實人事も問題でしたが、宗教的偏向性が反映されたとんでもない人事は、組織のメンバーに自己恥辱感を抱かせるに十分でした。李会長は韓国社会では珍しい立志伝的な人物です。別に他のスペックなく自力で成功して体育と宗教、二つの分野の巨頭になるというのは言葉のように簡単ではありません。体育と宗教は政治の権力的属性とは一步離れていますが、いざとなったら政治の有用な動力として活用できるという共通点を持っています。李会長が体育と宗教を絶妙につなげて韓国社会の中心部に進入している姿に、きれいでない視線を送るのもこのような認識の延長線上にあります。体育と宗教は純粹でなければならない領域ですが、与野党を行き来する李会長の全方位的活動(?)は、体育会長として進むべき道とは多少遠くに見えるのがスポーツ界の骨のある指摘です。

正しく立つべき体育会が蛇行した歩みを重ねているなかで李会長に向かって殺到している苦言は、ただ一つです。体育界に入った当時の初心を振り返って、体育という一つの道に純粹な情熱と愛情を注ぎ込んで欲しいという願いです。その第一歩は李会長に荷札のように付く宗教偏向を払拭させる断固たる意志表明になったらと思います。体育会長として、宗教的な問題が浮上した以上、これを曖昧にしては困ります。宗教はいつもそうであるように敏感でありながら破壊力が大きい事案だからです。その宗教の立場では二つの職責を一緒に実行しても特に問題はないとしても、スポーツ界ではそうではありません。様々な宗教を受け入れるべき体育会長が宗教的偏向性により傷ついた場合は、当然信徒会長職は降りるのが正しいです。機能として存在しなければならぬ宗教が外部にナイフを握った姿で映ったら、もはや宗教ではありません。それは正に権力です。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=468&aid=0000440865>

02 SBS ニュース 2018. 11. 1

【 文体部、兵役特例奉仕活動選手の全数調査はすぐに着手…対象は 31 名 】

文化体育観光部がサッカー選手チャン・ヒョンスの兵役特例奉仕活動書類操作に関連して似たような状況の奉仕活動対象の特例体育要員の全数調査にすぐに着手します。

文体部は兵役特例体育要員について奉仕活動状況を管理する国民体育振興公団と共に全数調査計画書を作成中です。

体育公団が管理する奉仕活動対象特例要員に編入された人員は合計 31 人です。

31 人のうち 24 人は 9 月までに編入された人員であり、7 人は 10 月に追加で奉仕活動の対象に含まれました。

彼らはチャン・ヒョンスのように 2014 年仁川アジア大会で金メダルを取った選手はもちろん、2016 年リオ五輪と 2018 年の平昌五輪に続き、今年開催されたジャカルタのアジア大会のメダリストまで網羅されています。

奉仕活動対象選手の種目はサッカーと野球、柔道、射撃、フェンシング、バドミントン、サイクリングなど夏季種目はもちろん、スケートやボブスレーなど冬季種目まで合計 14 に達します。

ジャカルタアジア大会で並んで金メダルを取った野球やサッカー選手も一部が兵役特例要員に編入されて奉仕活動に入ります。

野球はエントリー24人のうち、兵役特例給付を受けた9人が全員特例要員申告を終え、サッカーは20人のうちわずか1人だけが申告手続きを終えたと伝えられました。

全数調査は10月以前に奉仕活動を行った24人に集中されると思われます。

10月に編入した7人はまだ奉仕活動実績がわずかであるためです。

文体部と体育公団はまず、その選手の奉仕活動実績書類を確認した後、不備の部分は書類補完を要請し、必要であれば選手が奉仕活動をしていたところの現場調査も並行して行う予定です。

現行兵役法の規定上、アジア大会金メダルとオリンピック銅メダル以上の成績を出した男子選手は4週間の軍事訓練と、34ヶ月の間に544時間の体育分野の奉仕活動によって兵役義務を代わりしています。

仁川アジア競技大会までに無かった544時間の奉仕活動の規定は2015年7月から導入されました。

チャン・ヒョンスの場合、仁川アジア競技大会サッカーの金メダルで兵役特例を受けましたが、規定が変わった後の2016年3月に特例体育要員申告をしたため、奉仕活動の対象に含まれました。

チャン・ヒョンスは2017年12月から2ヶ月間、母校の学生を対象に訓練したと196時間の奉仕活動証明書類を提出しましたが、大雪が降った日にきれいな運動場で訓練された写真を出すなど、不審な状況が捕えられて書類操作の事実が明らかになりました。

これにより文体部はチャン・ヒョンスの義務サービス期間5日を延長するように警告処分をし、サッカー協会もチャン・ヒョンスの代表資格を永久剥奪し、罰金3000万ウォンを賦課する重い懲戒を下しました。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=055&aid=0000686058>

03 ハンギョレ 2018.11.02 【 平壤で南北テコンドー統合に合意 】

最初是一个の根だったが二つに分かれていた南北テコンドーがついに統合されます。

韓国主導で発展した世界テコンドー連盟（WT）と北朝鮮で成長した国際テコンドー連盟（ITF）が2日前、平壤羊角島（ヤングクト）国際ホテルでテコンドーの統合と発展のための合意書を締結しました。両団体が今年中に統合されると、1966年に創設された国際テコンドー連盟に対抗するために1973年に世界テコンドー連盟（当時略称WTF）が作られた後、45年ぶりです。

この日の調印式には、チョ・ジョンウォン世界テコンドー連盟総裁と李ヨンソン国際テコンドー連盟総裁をはじめとする二団体の総裁団が一緒にいました。チョ総裁は国際テコンドー連盟の招請で世界テコンドー連盟示範団を率いて先月30日から平壤を訪問しています。両団体は前日の実務協議でおおよその合意が導き出されて、この日の出会いは和気あいあいとした雰囲気の中で合意署名と記念撮影まで50分で仕上げました。

両団体は、まずテコンドー統合を推進する共同機構の構成に合意しました。機構の名称と性格、活動内容などは二つの連盟が、来る12月中に一緒に決定することにしました。

両団体はまた、テコンドー統合促進のための活動も一緒に開くことにしました。2020年の東京オリンピックをはじめ、中国、ロシア、スイス、アメリカ、日本で合同示範公演を推進することで一致しました。合同示範公演は順次、統一示範団をつくり進行できるように合同訓練センターの設置を共同機構で協議することにしました。

両団体は、それぞれの競技規則で進行する国際大会も試験的に共同主催することにしました。両連盟所属テコンドー人が、相手連盟が主催する世界選手権と大陸別選手権大会などの国際試合に参加することができる

よう段証、審判員証などを手順に沿って互いに認めることにしました。

韓国のテコンドー（世界テコンドー連盟）がスポーツの側面が強いのに対し、北朝鮮テコンドー（国際テコンドー連盟）は伝統的な武芸性格が強いです。世界テコンドー連盟は基本動作と構え、対決、撃破、護身術などに区分され、このうち対決が 2000 年のシドニー大会からオリンピック正式種目に採択されました。一方、北朝鮮テコンドーは基本動作、形(構え)、対抗(対決)、威力、特技などに区分されます。韓国テコンドーはヘッドギアや胴体プロテクター等を着用しますが、北朝鮮テコンドーはプロテクターなし、マウスピースと手袋、靴底のない柔らかい素材の履物を着用し、拳で顔を打撃するなど多少過激です。

両団体はこの日、テコンドーをユネスコ無形文化遺産と一緒に登録するよう積極的に協力することにしました。また、この日の合意事項の継続的な実施のために毎月一回以上、合意された場所での実務協議を続けていくことにしました。二人の連盟総裁も頻繁に会って、共同機構の構成とテコンドーの発展のための実践的な問題を協議していくことにしました。

国際テコンドー連盟は崔ホンヒテコンドー協会初代会長が 1966 年にソウルで創設した団体です。崔氏は朴正熙政権と対立して 1972 年にカナダに亡命し、1979 年に平壤を訪問して自分が創案したテコンドーを北朝鮮に移植しました。崔氏の亡命直後 1973 年に金ウンヨン当時の駐米大使館参事官が朴正熙政権の指示で、世界テコンドー連盟を結成しました。両団体は登録加盟国を増やす競争を繰り広げるなど、40 余年間対立と葛藤を繰り広げました。

この日、チョ・ジョンウォン世界連盟総裁は「ちょうど来年はテコンドーが 1994 年にフランスのパリ国際オリンピック委員会（IOC）総会で五輪正式種目に採択されてから 25 年になる年」とし、これを記念して合同公演を IOC 本部があるスイスのローザンヌで持とう提案しました。これに対して李ヨンソン国際連盟総裁は「積極的に参加します。無条件に行きます。」と快諾しました。

しかし、世界連盟が北朝鮮の選手たちのオリンピック出場のために国際連盟に提案した平壤内の国際テコンドー連盟協会設立は今回受け入れられませんでした。李総裁はこれを念頭に置いたように "水も急に飲むと喉が詰まる" と言いました。

http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/868555.html

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com